

本資料は、米国アッヴィ社が2022年10月28日(米国時間)に発表したプレスリリースを一部、日本語に翻訳し、2022年11月2日(日本時間)、皆さまのご参考として供するものです。本資料の正式言語は英語であり、その内容および解釈については英語が優先します。本資料(英文)については、www.abbvie.comをご覧ください。なお本文中には日本未承認薬、未承認適応症に関する情報が含まれています。

PRESS RELEASE

2022年11月2日

アッヴィ、2022年第3四半期の業績を発表

- 第3四半期の希薄化後1株当たり利益(EPS)はGAAPベースで、24.2%増の2.21ドルでした。調整後希薄化後EPSは29.3%増の3.66ドルでした。これらには、取得した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払に関連した1株当たり0.02ドルのマイナスの影響が含まれます¹。
- 第3四半期の売上高は、報告ベースで3.3%増、営業ベースで5.4%増の148億1,200万ドルでした。
- イミュノロジー(免疫)領域の第3四半期の売上高は、報告ベースで14.6%増、営業ベースで16.4%増の76億5,100万ドルでした。ヒュミラ®の米国での売上高は、7.4%増の49億5,600万ドルで、米国外ではバイオシミラーの影響により、報告ベースで25.9%減、営業ベースで16.8%減の6億300万ドルでした。スキリージ®の売上高は、13億9,700万ドルでした。リンヴォック®の売上高は、6億9,500万ドルでした。
- 血液腫瘍領域の第3四半期の売上高は、報告ベースで11.7%減、営業ベースで9.9%減の16億5,000万ドルでした。イムブルビカ®(日本ではヤンセンファーマ株式会社による承認・販売)の売上高は17.4%減の11億3,500万ドルで、その内訳は、米国内が8億4,900万ドル、米国外が2億8,600万ドルでした。ベネクレクスタ®の売上高は、5億1,500万ドルでした。
- 精神・神経疾患領域の第3四半期の売上高は、報告ベースで6.7%増、営業ベースで8.3%増の16億7,200万ドルでした。ボトックス・セラピューティック(日本ではグラクソ・スミスクライン株式会社による承認承継・販売)の売上高は、6億9,900万ドルでした。Vraylar(日本では未承認・未発売)の売上高は、5億5,400万ドルでした。
- エステティクス領域の第3四半期の売上高は、報告ベースで4.0%増、営業ベースで8.1%増の13億100万ドルでした。ボトックス・コスメティックの売上高は、6億3,700万ドルでした。Juvederm(ジュビダームビスタ®として、アラガン・ジャパン株式会社による承認・販売)の売上高は、3億5,200万ドルでした。
- 2022年度における調整後希薄化後EPSの中間値の見通しは、13.76ドル~13.96ドルから13.84ドル~13.88ドルの狭いレンジとなります。これには、2022年度の年初から第3四半期までに発生した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払に関連した1株当たり0.25ドルのマイナスの影響が含まれます。



- 2023年2月の配当より、5.0%増の増配を実施することを発表します。

米国イリノイ州ノースシカゴ、2022年10月28日—アッヴィ(NYSE: ABBV)は、2022年第3四半期(2022年9月30日終了)の業績を発表しました。

アッヴィの会長兼 CEO のリチャード・A・ゴンザレスは、次のように述べています。「引き続き、免疫領域の主要製品である、スキリージ®、リンヴォック®が好調を維持し、これら2製品に加え、多様なポートフォリオのその他の製品も成長をけん引し、エステティクス領域の製品の一時的な逆風が軽減され、今四半期も好業績を上げることができました。好調なビジネスに基づき長期的な見通しへの自信から、再び増配を行います」

注意: 「営業ベース(Operational)」の対比は、恒常為替レートで提示し、前年の為替レートにより現地通貨売上高の比較を実施しています。

¹2022年第1四半期から、アッヴィは、コラボレーション、ライセンス契約、資産取得などに関する前払およびマイルストーン支払の影響を報告ベースの non-GAAP 指標に含めています。

2022年第3四半期の業績

- 売上高は、GAAP ベースで 3.3%増、営業ベースで 5.4%増の 148 億 1,200 万ドルでした。
- イミュノロジー(免疫)領域の売上高は、報告ベースで 14.6%増、営業ベースで 16.4%増の 76 億 5,100 万ドルでした。
 - ヒュミラ®の売上高は、報告ベースで 2.5%増、営業ベースで 3.9%増の 55 億 5,900 万ドルでした。米国での売上高は、7.4%増の 49 億 5,600 万ドルで、米国外ではバイオシミラーの影響により、報告ベースで 25.9%減、営業ベースで 16.8%減の 6 億 300 万ドルでした。
 - スキリージ®の売上高は、報告ベースで 75.4%増、営業ベースで 78.3%増の 13 億 9,700 万ドルでした。
 - リンヴォック®の売上高は、報告ベースで 53.5%増、営業ベースで 59.3%増の 6 億 9,500 万ドルでした。
- 血液腫瘍領域の売上高は、報告ベースで 11.7%減、営業ベースで 9.9%減の 16 億 5,000 万ドルでした。
 - イムブルビカ®(日本ではヤンセンファーマ株式会社による承認・販売)の売上高は 17.4%減の 11 億 3,500 万ドルで、その内訳は、米国内が 8 億 4,900 万ドル、米国外が 2 億 8,600 万ドルでした。
 - ベネクレクスタ®の売上高は、報告ベースで 4.5%増、営業ベースで 11.3%増の 5 億 1,500 万ドルでした。



- 精神・神経疾患領域の売上高は、報告ベースで6.7%増、営業ベースで8.3%増の16億7,200万ドルでした。
 - ボトックス・セラピューティック(日本ではグラクソ・スミスクライン株式会社による承認承継・販売)の売上高は、報告ベースで8.2%増、営業ベースで10.0%増の6億9,900万ドルでした。
 - Vraylar(日本で未承認・未発売)の売上高は、20.2%増の5億5,400万ドルでした。
 - Ubrelvy(日本で未承認・未発売)の売上高は、1億6,000万ドルでした。
- エステティクス領域の売上高は、報告ベースで4.0%増、営業ベースで8.1%増の13億100万ドルでした。
 - ボトックス・コスメティックの売上高は、報告ベースで16.9%増、営業ベースで21.6%増の、6億3,700万ドルでした。
 - Juvederm(ジュビダームビスタ®として、アラガン・ジャパン株式会社による承認・販売)の売上高は、報告ベースで0.6%減、営業ベースで5.3%増の3億5,200万ドルでした。
- GAAPベースで、売上総利益率は66.1%でした。調整後売上総利益率は85.4%でした。
- GAAPベースで、売上高に占める販売費および一般管理費(SG&A)の割合は、22.3%でした。調整後SG&Aの割合は20.9%でした。
- GAAPベースで、売上高に占める研究開発(R&D)費の割合は、10.9%でした。調整後R&D費の割合は10.8%でした。
- 取得した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払の売上高に占める割合は、0.3%でした。
- GAAPベースで、営業利益率は31.1%でした。調整後営業利益率は53.4%でした。
- 純支払利息は4億9,700万ドルでした。
- GAAPベースで、税率は、10.2%でした。調整後の税率は、12.9%でした。
- 希薄化後EPSは、GAAPベースで2.21ドルでした。特定項目を除く調整後希薄化後EPSは、3.66ドルでした。これらには、取得した仕掛研究開発費およびマイルストーン支払に関連した1株当たり0.02ドルのマイナスの影響が含まれます。

注意:「営業ベース(Operational)」の対比は、恒常為替レートで提示し、前年の為替レートにより現地通貨売上高の比較を実施しています。

詳細な情報はこちらをご覧ください(英文オリジナル)。

https://news.abbvie.com/news/press-releases/abbvie-reports-third-quarter-2022-financial-results.htm?_ga=2.125604172.735927574.1667169044-2011167579.1662430680



アッヴィについて

アッヴィのミッションは現在の深刻な健康課題を解決する革新的な医薬品の創製と提供、そして未来に向けて医療上の困難な課題に挑むことです。患者さん一人ひとりの人生を豊かなものにするため次の主要領域に取り組んでいます。免疫疾患、がん、精神・神経疾患、アイケア、ウイルス、ウイメンズヘルス、消化器疾患、さらにアラガンエステティクスポートフォリオの製品・サービスです。アッヴィの詳細については、www.abbvie.com をご覧ください。Twitter アカウント [@abbvie](https://twitter.com/abbvie)、[Facebook](#)、[LinkedIn](#) や [Instagram](#) でも情報を公開しています。

Forward-Looking Statements

Some statements in this news release are, or may be considered, forward-looking statements for purposes of the Private Securities Litigation Reform Act of 1995. The words "believe," "expect," "anticipate," "project" and similar expressions, among others, generally identify forward-looking statements. AbbVie cautions that these forward-looking statements are subject to risks and uncertainties that may cause actual results to differ materially from those indicated in the forward-looking statements. Such risks and uncertainties include, but are not limited to, the failure to realize the expected benefits of AbbVie's acquisition of Allergan or to promptly and effectively integrate Allergan's business, challenges to intellectual property, competition from other products, difficulties inherent in the research and development process, adverse litigation or government action, and changes to laws and regulations applicable to our industry. Additional information about the economic, competitive, governmental, technological and other factors that may affect AbbVie's operations is set forth in Item 1A, "Risk Factors," of AbbVie's 2021 Annual Report on Form 10-K, which has been filed with the Securities and Exchange Commission, as updated by its Quarterly Reports on Form 10-Q and in other documents that AbbVie subsequently files with the Securities and Exchange Commission that update, supplement or supersede such information. AbbVie undertakes no obligation to release publicly any revisions to forward-looking statements as a result of subsequent events or developments, except as required by law.